

受賞の親子を表彰

を基に行動したり、新しいニュースを家族に教えてくれたりする娘の姿は頼もしい。見て、考えて、体験したいという気持ちを持ち続けてほしい」と願った。

受賞の記事に友人らから大きな反響があったという中学生の部最優秀賞の菊地未柚さん（巴川白河市、石川義塾中二年）は「新聞記事は年齢や性別、職業を問わず、いろいろな人の会話のきっかけになれる。これからも楽しく読んでいきたい」と誓った。

新聞作りを見学した母美希さん（同）は「情報には人を動かす力があり、その行動がまた、情報として新聞に載る。新聞を作る人たちの頑張りが、そのサイクルを支えていると分かった」と感想を寄せた。

福島民報社が主催した第九回「私と新聞」親子作文コンクールの受賞者は十六日、福島市の民報ビルで行われた表彰式に臨み、新聞に一層親しんでいくとの思いを強くした。

受賞者は式後の懇親会でそれぞれ作品を朗読した。

小学生の部親子賞最優秀賞の大関幸さん（ふたば会津若松市、会津若松ザベリオ学園小三年）は「身近な地域の情報が載っている会津版が好き。文章で上手に表現できるようになり、将来は新聞記者になりたい」と夢を明かした。母美華さん（同）は「新聞の情報

審査員を務めた県教育庁県北教育事務所の花輪忠康学校教育課指導主事は「新聞には世の中のさまざまなニュースを一度に読めるという良さがある。日々掲載される記事がどのようなものか、正しいのか、どんな考えで取材されているのかを考えながら読んでほしい」と講評した。



受賞作品を発表する中学生の部最優秀賞の菊地未柚さん（右）と母美希さん



最優秀賞を受けた作文を朗読する小学生の部の大関幸さん（右）と母美華さん